

MOCO通信

MOCOとは、「mother=母のようないい」のMOと「combination=結合」のCOからつけられました。「きょうとMOCO」は京都府中小企業女性中央会の愛称です。

令和8年2月16日発行 第43号

編集・発行：きょうとMOCO

京都府中小企業女性中央会

〒600-8009

京都市下京区四条通室町東入ル函谷鉢町7番地

京都経済センター3階 京都府中小企業団体中央会内

☎ 075-708-3701 ☎ 075-708-3725



← 本会の最新情報はコチラ

令和7年度女性中央会近畿ブロック交流会を京都で開催

令和7年10月8日(火)、秋の清々しい晴天に恵まれる中、「令和7年度女性中央会近畿ブロック交流会」が開催されました。今回の舞台は、100年以上の歴史を誇る「長楽館」です。

長楽館は、明治の煙草王・村井吉兵衛の別邸に建てられた建物で、立教大学学長を務めたアメリカ人建築家ガーディナーの建設により、5年もの歳月をかけて1909年(明治42年)に完成しました。

館内に足を踏み入れると、ルイ15・16世時代を彷彿とさせる重厚なインテリアが広がり、ひときわ豪奢な雰囲気に包まれます。かつては日英米の要人も数多く滞在し、京都の迎賓館として華やかな社交の場となっていました。「長楽館」という名は伊藤博文公が揮毫したもので、2024年には国の重要文化財にも指定されています。

交流会ではこの歴史の重みを感じる非日常的な空間で、皆様と様々なお話を花を咲かせ、心弾む楽しいひとときを過ごすことができました。

その後はオプション観光として、京都ウェルカムサポートー会の方のご案内で「ねねの道」から「高台寺」を巡りました。私自身は仕事で訪れる場所ですが、丁寧な解説を受けながらゆっくりと歩く観光は格別で、新たな発見がありました。10月とは思えない暑い一日でしたが、歴史ある名建築と古都の風情に触れ、日々の喧騒を忘れてリフレッシュすることができました。ご参加された皆様お疲れ様でした。

(記：監事 西原 佑美子)



長楽館 コーラル前のパティオにて記念撮影



オプション観光の様子



MOCOフォーラムを開催



令和7年11月18日(火)、本会創立25周年・京都府中小企業団体中央会創立70周年記念事業として、MOCOフォーラムを開催しました。 「世代の“カベ”を超える！すぐに使える、コミュニケーション術～あなたの“関わり方”で、もっと豊かに！～」をテーマに、株式会社成基総研の研修指導部コーチング部マネージャー 鹿取 広幸氏にご講演いただきました。セミナーでは、異なるバックグラウンドや価値観を持つ多様な世代が共存する職場において、円滑なコミュニケーションをとるためのスキルについて学びました。



きらいん！MOCOメンバー

このコーナーでは、キラキラ輝く会員の方々をご紹介します。



「患者さんの心と身体を元気にしたい！」と語られるのは、第2の人生として鍼灸師を目指し猛勉強。資格取得後、2014年に鍼灸院を開業され、なりたい自分を実現された伊吹ゆかりさん。素敵な笑顔でインタビューにお答えいただきました。

(インタビュー：理事 遠山 あゆさ)

いぶき
伊吹 ゆかり さん (伊吹鍼灸治療院 院長・鍼灸師)

事業所DATA：伊吹鍼灸治療院

京都市中京区西洞院御池下がる三坊西洞院町 565 ラフィーネ御池 603)

TEL：090-2706-8613

URL：<https://ibuki-shinkyu-in.com/>

伊吹鍼灸治療院 検索

鍼灸師になられたきっかけを教えてください

子育てが一段落した時に、燃え尽き症候群になったんです。それまでは、子どもの学費を稼ぐためにいろいろなジャンルの仕事をしてきました。自分のこれから的人生を考える中、生涯現役でできる仕事がしたい。「私は〇〇です」と職業が言える仕事がしたいと思ったんです。

52歳の頃、自宅近くにある京都医健専門学校を訪れた際に、当時の鍼灸科の学科長と出会いました。その時は、パンフレットをもらいに行くだけのつもりだったんですが。学科長から、「一緒に第2の人生を楽しもう！」って仰っていただいて、その出会いが転機となり、同校に入学し鍼灸師を目指しました。同級生のほとんどが自分の子どもと同世代で、入学式に出席すると保護者と間違えられました（笑）。

勉強は記憶力との戦いで、覚えないといけないことが本当にいっぱいあって。しんどい時もあったけど、先生の励ましもあり国家試験に合格することができ、2014年に鍼灸院を開業しました。

今が一番幸せです！！

お仕事に対する思いを聞かせてください

患者さんの心と身体を元気にしたいんです。

まずは、働いている人を応援したい。「肩が凝っている」とか「腰が痛い」とか言われる患者さんがほとんどで、原因を探ってみると過度のストレスがかかり、知らない間に体が悲鳴をあげていることが多いんです。身体だけでなく、心も元気になってもらえるように気楽に過ごせる治療環境とコミュニケーションを大切にしています。



もう一つは、学生時代に陸上競技の選手だった経験を活かして、学生アスリートを応援したいんです。箱根駅伝の選手を診ているので、月に2～3回は東京に出張しています。また、治療院には中学生や高校生の陸上選手もやってきます。コミュニケーションの苦手な子もいますが、選手との距離感を意識しつつ食事の事や勉強の事などのいろいろな話を聴いたりして、心も元気になってもらえるようにしています。選手が大会に出場した話や、「故障なく納得できる走りができた！」との話を聞くと嬉しいですね。

会員の皆さんへのメッセージ



インタビューの遠山理事と記念撮影

健康の秘訣は悩まないことです。ストレスなどの心の疲れが、心身の様々な不調となることもあります。私自身は、治療がイメージ通りにいかなかった時に落ち込むことはありますが、皆さまの健康維持のために、東洋医学にて役に立ちたいと思います。

聞いてみました！肩凝りのセルフケアはどうしたらいいですか？
伊吹さん：ラジオ体操が一番です！

